

---

666

ゲルニカ

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

666

### 【Nコード】

N6428C

### 【作者名】

ゲルニカ

### 【あらすじ】

智子oooooooooooooooooooo!!

人類を滅ぼそう!!と俺と智子は、考えた。

僕ら洋一18歳と智子15歳が出会ったのは、孤児院の中。

『お前何て言うの?』

『智子………。』

『俺の名前は、洋一。何だかお前俺と同じ匂いがするな。』

『そうかな?友達になつてくれない……洋一?』

『おう。良いぜ!!よろしくな』

友達もいない、身寄りもない、洋一と智子は、すぐに仲良くなつた。

智子は、洋一に言った。

『ねえ?洋一……こんな世界、破滅すれば良いのにね?』

『だな……別に生きる意味ないし。俺は、智子だけさえいれば良いし』

『そつかあ。なら世界が終わる時、一緒に死のうね?』

『おう!!死のうぜ』『私、本気だよ?』

『俺も、本気だ!!』

と洋一は、智子を抱きしめた孤児院から脱け出した洋一と智子は、洋一に連れられて

岩城の森とゆうに向かった。

ガダンゴドンガタンゴドン

電車に揺られながら

景色がだんだん田舎に変わって行く。

駅から20分ぐらい歩いただろうか?だんだん人気のいない所になつてきた。

『ねえ?洋一……?まだ着かないの?』

『もう少しだ！！』 だんだん赤い屋根が見えてきた。  
『着いた〜。』

『え？ここなの？』

智子が驚くのも無理は、ない。何たって古臭い廃墟みたいな家だからなのだから

中に入ってみると、意外に綺麗に片付いてた。

『ここ誰の家？』

『じいちゃんの家だよ。俺が小さい時に死んだけどね。そうだ智子も地下に行く道を探してよ。』

『地下？』

『地下には、色々あるんだよ。なぜならじいちゃんが残してくれた僕への大切な遺産があるからねえ。』ニヤリっ不適な笑みを浮かべる洋一。

『じゃあ探してみるう！！』とニヤケル智子。

それにしても一生懸命探す洋一と智子。なかなか見つからない。

『本当にあるの？』

『うん。あるはずだ』

半信半疑の智子

『あつたー！！』

『なんだお？ホントか？智子！？』と眼が鋭い洋一。

『うん。これじゃないの？』

『おおこれだ！！』

錆び付いた扉を開ける洋一。どうやら中は、とても暗いようだ。けど何のためらいもなく洋一は、進んで行く。携帯のライトを頼りに洋一は、あるものを探している。

やっと思えるものを見つけ智子の元へ。

『何かあつた？』

『うん。あつたよ。』

手に持つてるのは、手榴弾だ。

洋一は、智子にの口に向かって手榴弾を詰め込んだ！！

『！？』

顔をしかめる智子！！

『死ねカスが！！』

『んー』

ばあああゝあゝあゝ ああん

智子は、ぐちゃぐちゃに飛び散りながら死んだ。

『我は、世を統べる者ぞ？我は、悪魔ぞ？俺は、666（サタン）だ！！』と666の身体に翼が生え独特のオーラを放つ666は、宇宙へダイブした。

そして地球めがけて

火星を投げ飛ばした！！

ドガアアアゝゝアアゝアン

地球は、滅んだ。

『ふふふつ。快感だぜえ！！ヒヤハハハハハハハハア！！』

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6428c/>

---

666

2011年1月26日15時34分発行